

―房総発掘ものがたり―

平成15年度の出土遺物巡回展が、6月14日から浦安市郷土博物館を皮切りにスタートしました。

この巡回展は、千葉県内で実施された発掘調査のなかから特に重要な発見のあった遺跡を取り上げて、その成果をいち早く県民の皆様にご覧いただくため企画したものです。

当センターからは、旧石器時代の松尾町赤羽根遺跡の出土品と奈良時代の千葉市種ヶ谷津遺跡の出土品を出展しています。

各開催館の日程は次のとおりで、会期中、講演会や体験教室・解説会などが予定されていますので多数のご参加をお待ちしています。



浦安市郷土博物館の展示風景

H15. 6.14(土)～H15. 7.13(日)	浦安市郷土博物館(終了)
H15. 7.19(土)～H15. 8.10(日)	県立上総博物館(終了)
H15. 8.16(土)～H15. 9.15(月)	県立大根根博物館
H15. 9.20(土)～H15.10.13(月)	県立安房博物館
H15.10.17(金)～H15.11. 3(月)	さわやかちば県民プラザ
H15.11. 8(土)～H15.12. 7(日)	県立関宿城博物館
H15.12.11(木)～H16. 1.18(日)	八千代市立郷土博物館
H16. 1.22(木)～H16. 2.20(金)	県立房総風土記の丘
H16. 2.24(火)～H16. 3.10(水)	県立中央博物館

昨年大好評をいただいた生涯学習フェスティバルが今年も会場をかえて開催されます。

千葉県文化財センターも文化財法人連絡協議会の一員として参加いたしますのでご案内いたします。

日時：10月11日(土)～13日(月)

会場：県立房総のむら

交通：JR成田線「安食駅」下車

「龍角寺台車庫」行バス 房総のむら下車

催物：勾玉づくり 1日4回

火おこし体験 随時

ペーパークラフト 随時

*催し物は、11日と12日の2日間の開催になります。

問い合わせ

(財)千葉県文化財センター 資料部普及課

電話043-422-8811



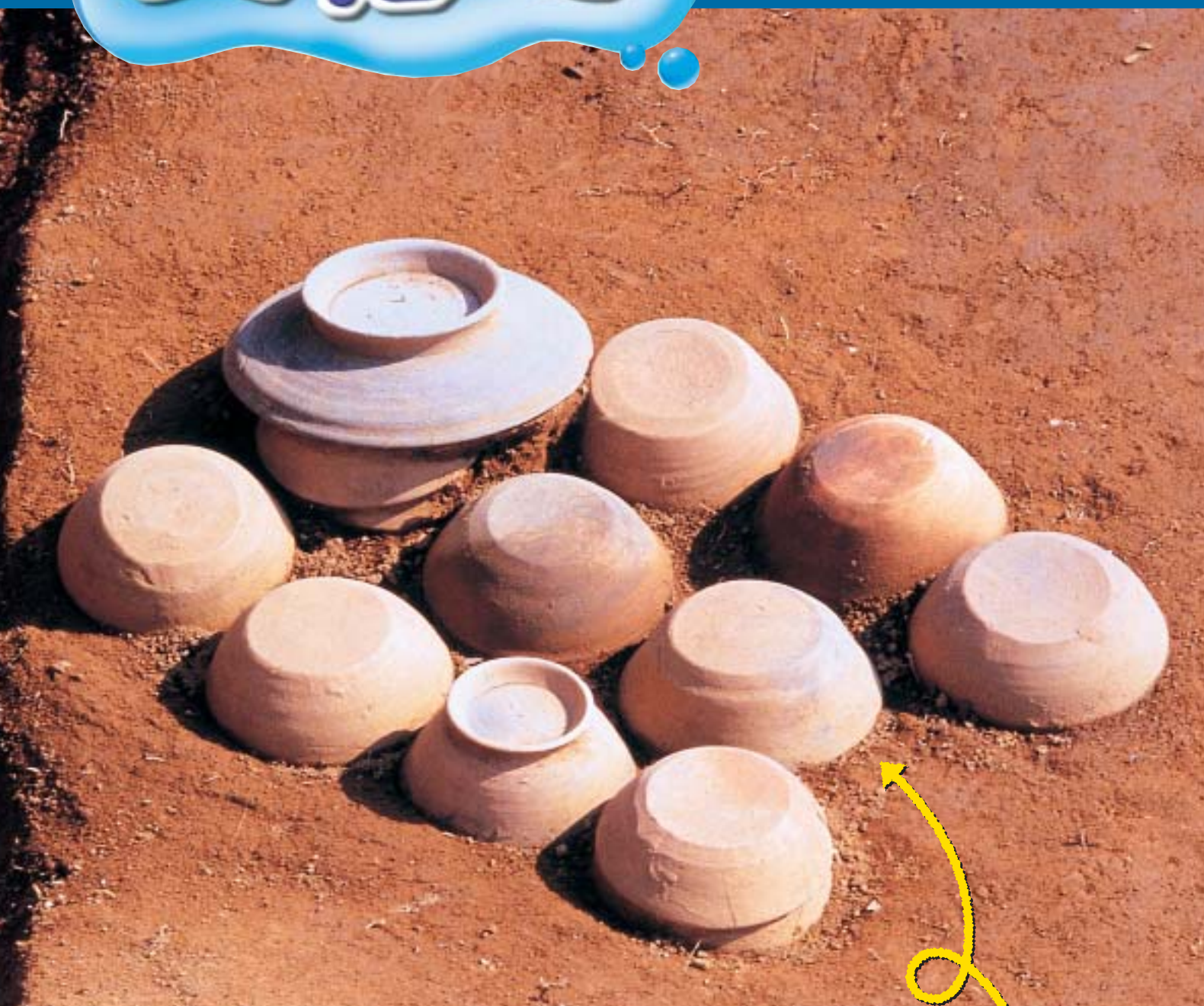
火おこしにチャレンジ

さる4月25日、四街道市立中央小学校6年生の児童42名が体験教室でセンター本部を訪れました。当日は、展示室で普及課職員から各時代の出土品についての説明を受けた後、縄文土器を直接手でさわったり両手で抱えたりして土器の重さや大きさを実感していました。また、整理室の見学では土器の接合や貝の選別など実際の作業の一部を体験するなど熱心に見学していました。

一方、火おこし体験ではセンター職員に手伝ってもらいながらチャレンジ。煙は出るけど火はなかなかつかず悪戦苦闘、あらためて火おこしのむずかしさを実感していました。

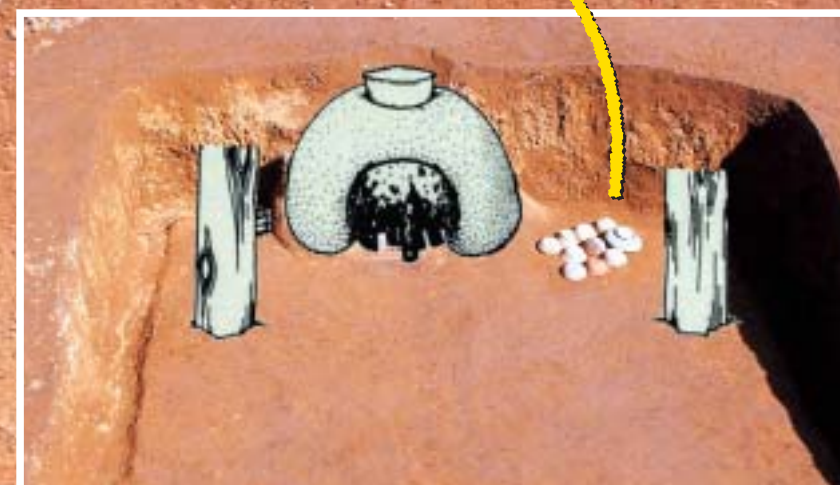


平成15年9月1日 財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代) FAX 043-422-8850
<http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp>



CONTENTS

- 発掘調査速報 1700年前の大きなむら
- 遺物紹介コーナー 描かれた蓮の華
- 遺跡今昔物語 山崎横穴群
- 埋文アラカルト 体験シリーズ
- お知らせコーナー



船尾白幡遺跡113号住居跡 (印西市船尾字白幡)

写真は平安時代初め（今から1,200年前頃）の
竪穴住居の様子です。
完全な形をした土器13点が、カマド近くの床
面から見つかりました。
全体が長方形に並んでいるのは、お盆の上に
伏せられていたためと考えられます。こうした
発見は、大変珍しいものです。

表紙の説明





「1700年前の 大きなむら」 — 流山市市野谷宮尻遺跡 —



遺跡の全景

市野谷宮尻遺跡は、千葉県西北部、流山市のほぼ中央に位置し、西側を流れる江戸川まで約2km、標高20m前後の台地上にあります。東京と茨城を結ぶ“つくばエクスプレス”の建設に伴って発掘調査を行いました。この調査では、100軒もの竪穴住居跡が発見され、そのほとんどが、今からおよそ1,700年前（古墳時代前期から中期）のものであることがわかりました。そこで、むらの中で一番大きな住居の中に、みんなで入ってみました。さて、何人いるのでしょうか？（答：裏表紙）実際に中で生活した人々はもっと少ないはずですが、それにしても大きな家ですね。調査では当時の人々が使っていた土器（土師器）がたくさん見つかっています。日常使用した食器以外にも、祭祀に使われたと考えられるミニチュア土器などの、珍しい器もありました。1,700年もの昔、ここは古墳時代の大きなむらだったようです。人々は、いったいどんな暮らしをしていたのでしょうか？今後の研究によって、その様子はさらに明らかになることでしょう。



手前がミニチュア土器



描かれた蓮の華？ — むら人の信仰 —

今回紹介する遺物は、印西市南西ヶ作遺跡の平安時代初めの竪穴住居跡から見つかった墨書土器です。このように墨で文字や絵が書かれた土器を「墨書土器」と呼んでいます。側面に「佛」の文字が、底部には蓮と思われる花の絵が描かれていました。「佛」は「仏」の古い字で、奈良時代～平安時代のむらの跡を発掘調査すると、しばしば見つかります。一方、絵が描かれた土器はたいへん珍しく、特に花の絵はこれまでごくわずかししか発見されていません。



底面の花の絵



側面の文字

今からおよそ1,200年前のこの時代は、都から遠く離れたここ房総の地でも、むらに住む人々の間に仏教が普及してきたころといえます。

丘陵地帯から ニュータウンへ 変身！

— 茂原市山崎横穴群 —

山崎横穴群は、茂原市の中心地より約3.5kmほど西に寄った、一宮川本流とその支流である豊田川にはさまれた広大な丘陵地帯に分布しています。昔から多くの研究者の調査でこの地域には数多くの横穴墓が確認されていました。

昭和53年4月から住宅団地を建設するため、46基の発掘調査が行われました。これらは古墳時代の終わり頃に丘陵南斜面に穴を掘って造られたもので、1基～3基程度のまとまりで点在していました。調査によって土器・鉄釘・鉄鋤・刀・玉類が発見されました。現在、山崎横穴群のあった丘陵地帯は、南北約1.8km、東西約1.2kmが造成され、約1,000世帯の人たちが住む「茂原緑ヶ丘ニュータウン」として緑豊かな住宅地になっています。



山崎横穴群



開発前の横穴群（12号～17号）



調査中の横穴群（1号～4号）



現在の風景

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

BC(紀元前) | AD(紀元後)

約2,300年前

約1,700年前

飛鳥時代

古代

平安時代

中世

鎌倉時代

室町時代

近世

江戸時代

明治

昭和

平成

現在

1,573

安土・桃山時代

1,603

大正

1,868

1,192

1,333

710

794

奈良時代